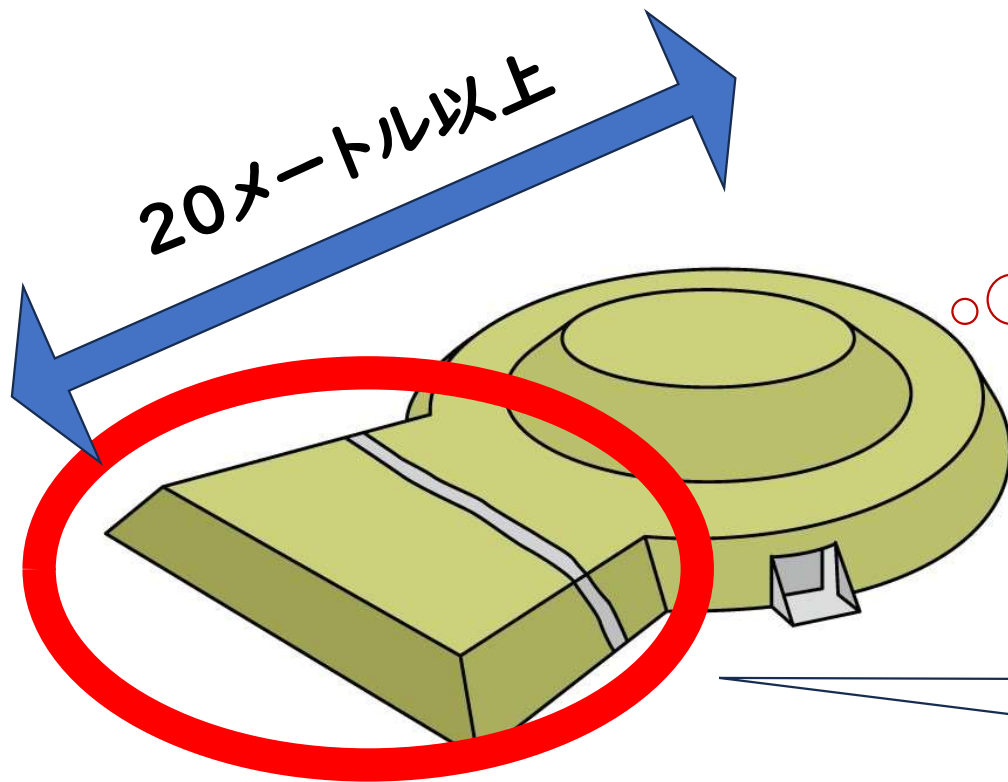


北町古墳



前方後円墳で六世紀頃（推古天皇や聖徳太子の時代）の古墳



地元の豪族もしくは貴族であつたであろう人物の古墳

現在は、この部分の一部が残っている

萱生由章著の
三国地誌 鈴
鹿郡賦に、北
町古墳につい
て、このような
一文がある

北町の西裏に大きな古墳がある。里の古
老の伝えによると、寛文（1661年～
1673年）の頃に、この古墳を掘り出して
石棺のふたを開けてみたところ、夫婦と
思われる二人が寝ていて、傍らには金で
作ったと思われる剣も添えてあった。しか
し、空気に触れたことでたちまち消えてし
まった。碑には銘などもあったようである
が、よくわからない。この家の主は今も花
などを手向けて、祀っている。

北町の西裏に 大ききよりなる 墳墓有り 里の古老の 伝へには 寛文の比くらなりけるが ことなる塚を あ
ばきしに 石のかららとの ありけるを ふたおし明あきで うかがへば 夫婦まぐらを かたたがへ いたるはし
く ふしたりし こがね作りと おほしける 剣もそひて ありけるが 此世の風の吹くからに たちまち消きえて
失うにけり 碑の銘なども 有りけりといふ計はかりにて わけしれず 此塚敷ぬし いまにても 香か気を手向たまげ まつり
ぬる

北町古墳

六世紀頃の前方後円墳で
もとは全長二十m以上のも
のと思われる。後円部は道
路建設のため削られ、その
他の部分も土取りなどで崩
れたと思われる。現在残存
長十三m、後円部径七m、
高さ二・三mである。後円
部の石棺が開いており比較
的平らな花崗岩で組み合わ
されているのがわかる。東
が正面である。誰を葬った
古墳なのかわからない。

平成四年十月

石薬師魅力再発見委員会

〔鈴鹿市市制五十周年記念事業〕